

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500054		
法人名	医療法人社団 恒仁会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 プラタナス		
所在地	岐阜県各務原市那加前洞新町4-49		
自己評価作成日	平成25年 11月 26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai_2013_021_kani=true&amp;ji_gvosyoCd=2190500054-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver=si_onCd=021">http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai_2013_021_kani=true&amp;ji_gvosyoCd=2190500054-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver=si_onCd=021</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平均介護度も低くなっており、通い以外で訪問が増えている。現在、訪問体制を2名にして在宅でも安心して暮らして頂ける様にしている。行事で、地域の飲食店、喫茶店に行くようにし地域との関わりを持つ様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域で地域との交流を大切に考え、その人らしく暮らせるように支援している。気持ち良く過ごせるように明るい雰囲気、元気になるような雰囲気作りを心掛けている。地域の子供会で行う神輿の花飾りを事業所で一緒に作ったり、小学生が花の種を持って来てくれたり、花や野菜をもらったり地域と交流している。レクリエーションや外出、行事など地域の登録ボランティアの協力を得て取り組んでいる。出来たての料理を食べたいとの要望から、利用者と一緒炭火でさんまを焼いた。終末期や看取りについて家族の意向を大切にすることを伝えている。家族が事業所に宿泊して、一緒に看取りを行った例もある。自宅での看取りも支援したことがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切に、健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、毎朝確認し業務にあたっている。	朝礼時に理念を唱和し、住み慣れた地域でその人らしく暮らせるように取り組んでいる。毎月のミーティング等で利用者本位のサービスを提供するためには何が必要なのか話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、地域の行事に参加させてもらったり、事業所の行事にも子供会や地域の皆様にも参加してもらっている。	夏祭りを、自治会や子供会などと一緒に企画している。子供たちが事業所を訪れ、子供会の神輿に飾る花を利用者と一緒につくった。子供110番や河原の草刈りへの参加など地域の役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や包括が主催する地域ケア会議などに参加し事例の発表をしたり、提案をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用状況や取り組みについて報告をし、意見を頂いている。頂いた意見については職員にも報告し、サービス向上に繋げる努力をしている。	利用状況や行事、外部評価などを報告し話し合っている。事業所の行事について、地域にある備品を使用してはどうかと意見が出された。会議の開催方法を市町村に相談し、関連する施設と合同で開催している。	合同で行っていることから、関連した施設を含めた話し合いとなっている。事業所独自にサービス向上に繋がる話し合いが行われるような工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者へ報告や相談を行い、指導を受けている。	事業所より、介護保険についての質問をしたり、感染症の報告を行ったりしている。市町村から依頼があり、毎月事業所の実績を報告している。地域包括支援センターより困難なケースの紹介があり受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離床センサー、夜間見廻り体制を整えたり、居室の配慮をしたりして、拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等で身体拘束を行わないための対策や対応について職員間で話し合っている。福祉用具の活用や夜間の見廻り時間の見直しなど行って身体拘束を行わないように取り組んでいる。身体拘束について正しく理解することに努め、職員へ周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時研修に参加し学んでいる。包括・主治医等と連携を図り対応している。		

小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員がなるべく理解できる様、随時研修に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書を説明させて頂き、理解・納得頂いてから契約をして頂いている。質問、要望についてはその場で出来る限りお受けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を頂いた時には内容を職員へ周知し今後の対応に注意するようにしている。	要望や意見を気軽に言って欲しいと常日頃から伝えている。送迎時や訪問時、サービス担当者会議等、利用者や家族から意見や要望を聞いている。外出先や行事内容、利用時間の検討などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングには、運営者・管理者も出席し、職員一人一人の意見を聞くように努めている。	日頃から職員の意見や要望が出され、ミーティング等で話し合っている。職員の意見からガス乾燥機を設置した。また、職員から個別の面談を行って欲しいと要望があり実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加、内部研修の実施など研修機会を確保している。年次昇給、資格所得者には資格手当を支給するなども行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修など研修には順次参加出来る様にしている。新人チェックリストを用いて新人教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に参加し同業者との交流や情報交換を行っている。また、包括主催の地域ケア会議には毎月参加し、他職種や民生委員などとも繋がりをもつようにしている。		

小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御自宅へ訪問し、事前に御本人の声に耳を傾ける様に努めている。契約前にはお試し利用をして頂いたりして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御自宅へ訪問したり、実際にサービス提供の場を見て頂いたりし、話し合いの機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを作成し、他のサービス利用も含め総合的に情報収集を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等を利用者と共に行ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時に話をお聞きしたり、家族会などを開催し、家族とより話せる機会を設けている。担当の介護支援専門員といつでも連絡が取れる体制を作り、信頼関係の構築を努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活パターンを出来るだけ変えないよう、馴染みのスーパーへ買い物に行ったりしている。	馴染みのスーパーや喫茶店へ出掛けたり、地元の神社へ初詣に出掛けたりしている。神主の好意で祈祷をしてもらった。事業所を利用している時に、いつでも面会できることを家族に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、通い利用日を調整したりしている。		

小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も時々、連絡を入れたり行事に誘ったりして関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、御利用者様の声に耳を傾ける様になっている。	食事後や泊りの夜間など時間にゆとりがある時に、思い出や地元の話聞くことで、利用者の笑顔を引き出して思いや意向を聞いている。困難な場合は、家族に聞き、表情やしぐさから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時前に情報収集し、全体ミーティングで得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを利用し、状況の変化など、一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本意の介護計画が作成できる様に契約前に話し合いをもっている。変化があった時など、現状に合わせたサービスを提供するようにしている。	ミーティング前に職員から意見を聞き、話し合っって介護計画を作成している。介護計画に沿った日常の気づきや意見を申し送りに記入して、毎月行うモニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りに記入し、職員が情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な泊まりや、夜間の訪問、安否確認を行っている。		

小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	独自の見守り隊や、ボランティアに入ってもらい安心して過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ケアプラン作成時や、変化があった時はかかりつけ医に報告し、指示や留意事項を伺うようにしている。	かかりつけ医への受診は、家族が行っている。状況によっては事業所の看護師が同行することもある。困難な場合は職員が受診を支援している。受診結果を家族に確認したり、報告したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	服薬、状態観察など、医療に関わる事はもちろん、その他気付いた点も報告し、看護師の判断で適切に受診等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は地域医療連携室等に速やかに連絡をとり現状の確認や退院前の調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針を、主治医・家族・職員で話し合い、職員すべてに周知した。	終末期や看取りについては家族の意向を大切にすることを伝えている。家族が事業所に宿泊して、一緒に看取りを行った例もある。自宅での看取りも支援したことがある。医師からの指示を、看護師がその都度、職員に説明し情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域やサービス事業所連絡協議会の勉強会などに参加し、研修内容などミーティングで報告等している。	災害についての外部研修に参加し、職員に周知している。登録ボランティアや近隣に、災害時は協力を依頼している。地震等を想定した訓練を計画したいと考えている。夜間想定など避難訓練を実施していない。	運営推進会議で話し合ったり、消防署に相談したりして、避難訓練を行って欲しい。近隣の登録ボランティアを含め、地域の方にも協力してもらえるように継続して働きかけて欲しい。

小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務マニュアルに記載し、言葉かけや対応については注意している。また、毎月のミーティングでも声掛けなど注意するよう呼び掛けている。	利用者一人ひとりを把握することで、意向や気持ちを尊重した声掛けを行うように心掛けている。利用者からの言葉を大切に、すぐに対応することで人格を損ねないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定出来る事はして頂くように、促し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にしたい事や必要な事を優先し出来るだけ希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に行くことが出来ない利用者さまには、事業所に出張してもらっている。毛染めなども液体を購入してもらい入浴時毛染めをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	契約時に、嫌いな物や食べれない物をお聞きして出さない配慮をしている。	職員と一緒に座り会話を楽しみながら食事を行っている。利用者と一緒にチラシ寿司を作ったり、バーベキューや流しソーメンなどを庭先で行ったりしている。登録ボランティアの方も参加して一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは委託業者が立てている。摂取量は記録に残している。水分量が少ない時は声を掛けさせて頂き促しをしている。入浴後など、スポーツドリンクなどで水分補給を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り御本人の能力や状態、意欲に合わせ、介助が必要な場合は介助している。		

小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、誘導が必要な方に対しては声掛け、誘導等をしている。出来るだけトイレで排泄出来る様に支援している。	2人で介助してトイレ誘導するなど、出来る限りオムツを使用しない支援を心掛けている。家族からの要望を受け、職員間で話し合い送迎時や移乗時に立つ練習を行い自立につながった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を確認し、何日も排便がない場合は主治医、看護師に相談したり、水分を多く摂取してもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方には、声掛けを工夫したり、時間をずらしたりして支援をしている。	利用者との会話を楽しみながら入浴するように心掛けている。入浴時間や順番など利用者の希望に添えるように工夫している。泊りの時は、安眠できるように足浴とマッサージを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活ペースをお聞きし、なるべくいつものペースで過ごしてもらおうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、未薬防止の為、日中は看護師が行っている。薬情報としてファイルを作り活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味に合ったレクリエーションを提供する事を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩など希望に合わせて戸外へ出る機会を多く作っている。	天気の良い日には、事業所の近くを散歩している。登録ボランティアの協力を得て、外出やドライブに出掛けている。急な外出への要望には、出来る限り支援している。利用者の希望する神社へ初詣に出掛けた。	



小規模多機能型居宅介護 プラタナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問サービスの利用により買い物が出来る様になっている。行事で買い物ツアーの企画をした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	在宅が基本であるので特に支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広間には植物を置いて落ち着ける様にしている。居室は光や音が気にならない様に完全個室になっている。	玄関先のプランターに利用者と一緒に花を育てている。近所の方が持って来た花を飾ったり、利用者が季節に合わせた作品を作って飾ったりして季節感を醸し出している。感染症予防のために消毒液を湿らせたタオルを各出入りにさりげなく置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベット等を置き、皆さんと過ごしたり、横になって休める空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の多い方は自分の時計やラジオなど使い慣れた物を側に置き過ごされている。	居室のレイアウトを利用者に相談し、快適に過ごせるように工夫している。携帯電話やラジオなど日頃から使っている物を持って来てもらっている。泊りは、利用者の希望により居室を固定するようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室前に暖簾をかけたり、大きな日めくりカレンダーを作り日にちの認識が出来るようにしたり、廊下には手摺りを設置し歩行が安全に出来るようにしている。		